

「日本人として生きる——道徳教科書入門」

(株)寺子屋モデル 代表世話役社長 山口 秀範

一、はじめに・・・人はだれもが「ルーツ」を求め

「私のように、ほんのいくつかの先祖からの言い伝えしか手掛かりがなくて、それだけでアフリカの先祖が誰か、その先祖が捕われたとき何処に住んでいたか、さらにその捕われたのは何時ごろかを知り、自分の先祖の氏族から、その当の村までも明らかにできる幸運なアメリカの黒人が、他にまたあり得るだろうか」(『ルーツ』アレックス・ヘイリー)

「アレックスは歴史の秘密を暴き出してくれました。奴隷制という長い夜に光をともし、私たちの祖父母に人間らしい姿を取り戻してくれたのです。根無し草たちに「根(ルーツ)」を与え、人類という家族の一員に結びつけてくれた」(ジェシー・ジャクソン)

二、日本の国柄・・・民族のルーツ

*様々な「建国(独立)記念日」

ナイジェリア	1960/10/1	(50年前)
アメリカ	1776/7/4	(234年前)
英国(連合王国)	1714/8/1	(296年前?)
日本	-660/2/11	(2671年前)

「天地の初発の時、高天の原になりませる神の名は、天の御中主の神・・・みな独神に成りまして、身を隠したまひき」(『古事記 上つ巻』)

「はじめに神は天と地とを創造された。地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり・・・神は光あれと言われた。すると光があった・・・神はおおぞらを造って、おおぞらの下の水とおおぞらの上の水とを分けられた・・・神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された」(『旧約聖書 創世記』)

(参考) 神武天皇への系譜

天の忍穂耳の命

(霧島神宮)

邇邇芸の命

(鹿兒島神宮)

万幡豊秋津師比売

木の花佐久夜比売

日子穂穂出見の命

(鶺鴒神宮)

豊玉比売の命

日子波限建鶺鴒草葺不合の命

神倭伊波礼比古の命

玉依比売の命

(宮崎神宮)

三、日本人の感性・・正月の迎え方

新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事（『万葉集』大伴家持・四五一六）
かの人も此人も皆あらたまれ春の初めに祝ぐことは是れ（与謝野晶子）

明け初むる賢（かしくしろ）所の庭の面は雪積む中にかがり火赤し（今上天皇・「歳旦祭」平成十七年）
年ごとに月の在りどを確かむる歳旦祭に君を送りて（皇后陛下・「月」平成十九年）

四、美しい日本語・・自然と一体で連綿と

父母が頭かき撫で幸くあれていひし言葉忘れかねつる（『万葉集』防人の歌）
*挨拶・・「今日は、お元気ですか」・「お陰さままで」・「さようなら」・「ご機嫌よう」

五、国歌と国旗・・永遠なる自然との調和

君が代は、千代に八千代にさざれ石の巖となりてこけのむすまで（『古今集』より）
立て、奴隸となるな 血と肉もて築かむ よき国 われらが危機せまりぬ（中国国歌）
弾丸降る 戦いの庭に 頭上を高くひるがえる 堂々たる星条旗よ（アメリカ国歌）
「白地に赤く 日の丸染めて、ああうつくしや、日本の旗は。」
朝日の昇る 勢見せて、ああ勇ましや、日本の旗は」（高野辰之作詞・明治四十四年）

六、若者の生き方・・自分探しより「お手本」探しを

*江戸の寺子屋、ベストセラ―教科書『実語教』



山高きが故に貴からず、樹あるを以て貴しとす。人肥たるが故に貴からず、智あるを以て貴しとす。富は是一生の財、身滅ぶれば即共に滅ぶ。智は是万代の財、命終はるとも即随ひて行はる。

「学とはならふと申す事にて、総てよき人すぐれたる人の、善き行ひ善き事業を跡付して習ひ参るをいふ」

「益友と申すは、兎角気遣な物にて、折々不面白事有之候」（『啓発録』橋本左内）

諸宗教の間の分類や宗教戦争に慣れっこになった西洋人は、日本を知って、そこでは一人の人間が同時に神道と仏教の信徒たりうると聞いて、まず仰天の感情を隠しえないでしょう・・我々西洋人の精神構造は「対立」に基づき、あなたがた日本人の精神構造は「和合」に基づいています。願わくは、この特異性を保持せられんことを！けだし、破壊せずに統合する能力は、セクト主義や原理主義が猖獗を極めつつある現代において、絶対必要不可欠なる特質だからであります（『日本待望論』オリヴィエ・ジェルマントマ）